

3年1組

 自らの願いをもって動き出していく子ども  
 ～養豚と百葉箱プロジェクトの歩み～


# 百葉箱プロジェクト



「やっぱり神社って涼しいな。学校よりも3度くらい気温が低いよ」そう言いながら手に持っている温度計を見つめるAさん。小島神社の総代である松本さんからの依頼もあり、百葉箱を神社と学校に設置して時間によってどれくらい気温差があるのかを計測することになった子ども達。そのために、理科の授業と総合の時間を使って、百葉箱づくりに挑戦しました。学校に設置されていた壊れた百葉箱を基に、サイズを図ったり、必要なものを調べたりした子どもたちは、どんどん百葉箱を作り上げていきます。図工「釘打ちトントン」の授業で、釘打ちマスターになったBさんは、巧みに釘を木に打ち付け、屋根の部分を作っていました。むやみに打ち付けてはいけないと、メジャーで木の長さを測り、均等になるように印をつけて釘を打ち付けていく姿にBさんなりのこだわりをもって作っている様子が伺えました。また、百葉箱の横の部分を担当してCさんは、風が通る羽の部分の角度にこだわり、一つ一つ丁寧に位置を調整しながらボンドで接着していく姿がありました。手や腕を真っ白にしながらペンキを塗り続けたDさん。チームのみんながそれぞれの方向からバラバラに塗っていくのを見て、「それだときれいに塗れないから同じ方向に塗っていこう」と仕上がりの美しさにまでこだわってペンキを塗っていました。「わたしのこだわり」をもちながら作業する様子から、一人一人がそれぞれに思いをもち活動に取り組んでいるのが伝わってきました。そして、1か月以上かけて製作した百葉箱を設置するため、7月20日に神社へ向かいました。思いをかけて作ってきた百葉箱だけに、神社に設置された時には感慨深いものがありました。Eさんは、総代の松本さんに「いつもお世話になっているこの神社に、なにか恩返しをしたいと思い、みんなで協力してつくりました。気温の観測をして、この小島地区は田んぼがあることで過ごしやすい地区であることを、世の中の人たちに伝えていきたいと思います」と力強く抱負を述べてくれました。今後、私たちが育てる豚の小屋にも百葉箱を設置して、気温の違いを測定していく予定です。



# 『豚の命を守って大切に育てたいです』

離乳して10日目の子豚の様子(10kgくらい)

新たに うまれた いのち



(夏休み明けにやってくる子豚の様子)

2年生で植物の「いのち」を考えた子どもたちの新たなチャレンジは「養豚」です。『生産者の立場に立ち、豚を出荷すること』を目標に、子どもたちは夏休み明けから養豚を行います。それまでに、子どもたちは豚の育て方を学ぶこと、衛生管理について理解していくこと、豚を育てるための小屋を作ることを中心に学習してきました。「豚の命を守って大切に育てたいです」これは、養豚に関しての出前授業後にFさんが綴った言葉です。豚を育てることにワクワクしていたFさん。以前は、「たくさんかわいがってあげたいです」と綴っていたFさんでしたが、家畜保健衛生所の多田さん、獣医である中川さんのお話をお聞きする中で、Fさんの心は「かわいがる」から「命を守る」と変わっていったのです。中川さんからのお話の節々に「手放せない命、かけがえのない命を預かるのですよ」というメッセージが伝わってきました。養豚をすることは容易なことではありません。難しくても、命を預かるからには最後まで覚悟と責任をもって育てていかななくてはならないことを教えていただきました。実際に養豚を経験している中川さんだからこそその思いを子どもたちに伝えてくださったことで、きっとFさんの気持ちに変化が見られたのでしょう。

衛生管理基準をクリアするために、高木建設さんに協力してもらいながら養豚場建設が進んでいきました。衣服を着替えて養豚場へ入るための更衣室、豚が安心して暮らせる小屋、他の動物から豚を守る二重柵など、子どもたちは汗を流しながら、これから始まる豚との歩みを思い描いて一生懸命に作りました。完成した豚小屋に入ったGさんは、「風が通ってすごく気持ちいいよ。きっと豚ちゃんも喜んでくれるよ！」と意気揚々に話してくれました。

子どもたちのために協力し、応援してくださっている方々のためにも、「豚の命を守る」準備をしっかりと、子豚を迎え入れてあげたいです。

